

## 四脚門

四脚門は、妻沼聖天山歡喜院で最も古くから残った建物です。江戸時代（1603～1867年）初期に建てられたと考えられています。四脚門は4本の柱（四脚）で支えられており、釘を一切使わずに建設されています。火災除けとして切妻の下に付けられる懸魚（げぎよ）や端に施される桁隠しなど、室町時代（1392～1573年）に一般的だった装飾が施されています。大きな貴惣門と比べると四脚門の装飾は地味で、控えめな外観となっています。

門の柱の真ん中あたりにある白線は、歡喜院を含む周囲の村が付近の利根川から流れてきた水に浸かってしまった1910年の大洪水の際の水位を示しています。四脚門は、中門とも呼ばれています。